


重点取組名	消費者ニーズに応える活力あるトマト産地の育成	
普及活動担当	山口県山口農林事務所農業部	
主要な活動地域・対象農業者	山口県萩市高俣および阿東町を中心とする夏秋トマト栽培地域 山口あぶトマト部会	
取組結果・成果 <取組みのねらい>	<p>①産地統合支援と新部会体制の強化 隣接した2つの産地同士が協力し合うことで、共同選果場の再整備を実現するとともに、ロットの拡大により県内市場への供給率を向上させるだけでなく、県外市場への積極的な販売も可能となった。</p> <p>②新規栽培者の確保と既存生産者の活動支援による産地規模拡大支援 新規栽培者の確保や既存生産者の規模拡大を図れない限り、産地を統合するだけでは高齢化による産地縮小化に歯止めをかけることが出来ないため、インターネット等も積極的に活用し、町内外の新規栽培者の募集活動を行った。その結果、町外の新規栽培候補者3名を確保し、平成20年度の就農を目指して研修支援を実施することとなった。また、既存生産者については、栽培計画意向を確認しており、今後の産地計画に反映させる予定。 現在使用されていない遊休ハウスは、ハウス設置希望者等へ積極的な有効活用を支援することにより12棟が再利用され、規模拡大に向けた者のコスト軽減に役立てることができた。</p> <p>③エコファーマー技術の早期実現 研修会や栽培管理を通じ、各生産者が食の安全・安心や環境に配慮した栽培等を十分に意識した栽培管理が行われた結果、全員が農薬30%削減（エコファーマー技術要件）を達成することができた。</p> <p>④消費者ニーズへの対応 市場および量販店のバイヤー、卸売業者等を集め産地見学会を開催するとともに、県産品の販売協力店となっている量販店等に積極的な産地のPR活動を実施した。また、量販店での試食販売会に生産者が参加し、消費者に産地やトマトのPR活動を実施し、様々な形での産地PRや消費者の意識等について理解を深めることが出来た。</p>	
連携機関、協議会等		
取組の特徴や取組に際しての工夫	<p>①部会員コミュニケーションづくり 山口あぶトマト部会は、2JA間、3行政区にまたがった産地の統合であり、部会員数も130名の大きな部会となったことから、新部会としての活動が円滑に行われるとともに、旧産地同士である2支部間での交流活動が積極的に行われるように配慮した。特に、部会員どうしのコミュニケーションをとりやすくするため、両支部代表からなる技術部を設置し、現場での技術課題について生産者同士で協議できる場づくりを積極的に支援した。また各部会員の栽培上の問題点等から次年度作課題を把握するため、個別ヒヤリングを実施するとともに、全体での意見交換を行った。</p> <p>②消費者ニーズの把握 試食販売や量販店バイヤーや市場、仲卸関係者等の産地見学会の実施等、様々なかたちで消費者ニーズや実需者の需要を把握できるように努めた。</p>	
【参考】		<p>「産地見学会」</p> <p>参加者に、ハウス見学や山口あぶトマトを使用した料理5品を試食してもらい、産地イメージをPR。</p>